

フォーパ

～ 女性建築士の輪 ～

奈良県建築士会 女性委員会

2019 年 春号

第 97 号



蘆花浅水荘 書斎より

目 次

■ 女性委員会和室部会見学会 ～ 滋賀県湖南・湖東 ～	寺岡 春恵	P 1-4
■ 職人さんに聴く!! ― 大工職人 伏見 康司 氏	(聴き手) 岩城 由里子	P 5-7
■ 町家講座「奈良町茶室の楽しみ方講座」の報告	庄田 尚代	P 7
■ 私の好きな趣味「メタルビーズ」	梶谷 治美	P 8
■ 奈良県建築士会女性会員用グループメールへのお誘い	中辻 千重	P 9
■ 編集者が選ぶフォトジェニックスポット		P10
■ 今後の事業予定		P10

女性委員会和室部会見学会

～ 滋賀県湖南・湖東 ～
寺岡 春恵

毎年企画いただいている女性委員会の和室見学会。いつも素晴らしい企画で参加したいと思いつながら、なかなか叶わず参加出来なかったのですが、やっと今年は参加することができました。

今回は3月21日（木）、滋賀県の湖南・湖東をめぐる見学会でした。

初めに訪れたのは、明治から昭和にかけて活躍された日本画家 山元春挙の別邸「蘆花浅水荘」です。

迎え入れてくれた表門は、寄棟檜皮葺。裏千家 今日庵 兜門の写しで門をくぐると屋根に切り欠きがあり、頭を上げると門屋根の下から2階洋間の屋根



表門 屋根の切り欠き
(2階洋間の窓より撮影)



あられくずしの延段

全体を拝見することができました。

玄関までのアプローチは、あられくずしの延段になっており、大小の石がパズルの様に美しく並べられていました。お茶室に向かう様な趣のあるアプローチに建物内部への想像力が掻き立てられるものがありました。

私たちは、まずは、書院へご案内いただきました。

書院・撥雲亭の鴨居の上には、絞り丸太の長押が施され、1間幅の畳廊下を介して、波打つガラスより琵琶湖を借景とした庭が望めます。なだらかな芝生の小さな丘があり、所々に小さな松が植栽されています。今では琵琶湖との間に幹線道路が通っていますが、当初は、庭の続きに琵琶湖が広がっていたようです。

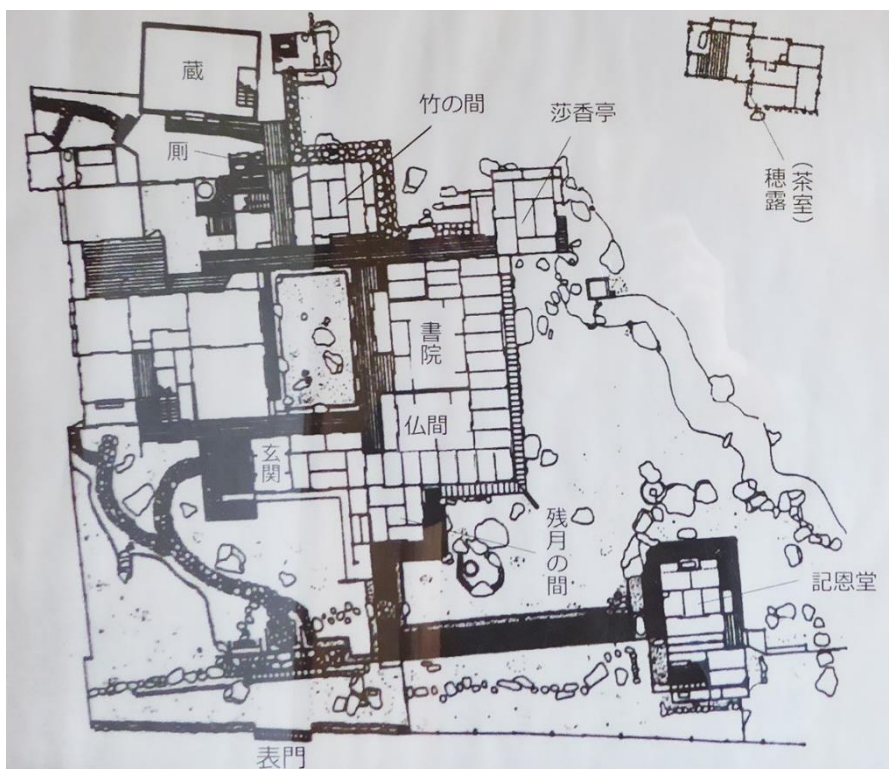
その撥雲亭には、二畳の上段床があり、表千家 残月亭を意識した床のようです。しかし、かなり春挙の個性が発揮された床となっております。床柱はなく、少し後ろに控えたところに杉四方柱目の柱があり、床框は、絞り丸太。落し掛けの角は、塗り廻しされて



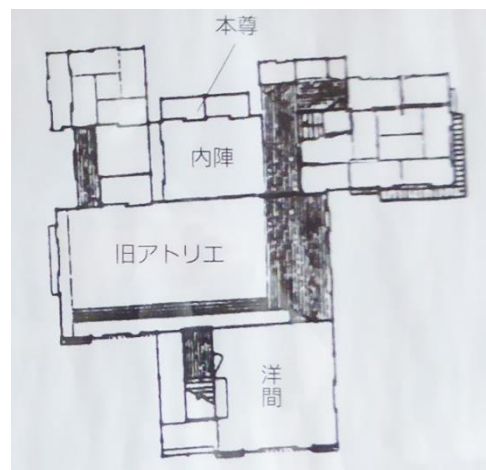
蘆花浅水荘 表門



門をくぐったところから見た蘆花浅水荘



蘆花浅水荘 間取り図 一階



二階

おり格式のある床に柔らかさが感じられるものとなっていました。



書院より望む庭

なお、「蘆花浅水荘」には、設計者はおらず、春挙自身が設計し、大工の橋本嘉三郎と共に作り上げた作品です。

特に春挙の遊び心を感じられたのは、襖の引手。撥雲亭の引手は、満月。隣の仏間は、上弦の月・下弦の月。仏間の隣の残月の間は、三日月。と、引手で月の満ち欠けを表現し取付高さにも変化をもたらすという見る人をホッコリさせてくれる仕掛けがあったのです。



月の満ち欠けを表現した引手

書院から「莎香亭」と呼ばれる6畳間に向かう際に通る1間幅の畳廊下。この廊下の天井は、舟底天井となっており5間5尺（約10m）の棟木が北山杉、1本丸太で節はなく、太さもほぼ均一という素晴らしいもので、今では入手不可能だそうです。



廊下の舟底天井

莎香亭は、袋床、円窓、袋棚があり、そこに仏間が設けられています。その袋棚の引手が千鳥となって

おりその取付高さも様々で、春挙松の襖紙の中、まるで鳥が自由に飛んでいる様に見えるのです。



莎香亭



千鳥の引手

莎香亭に連なり「無尽蔵」という春挙が書斎として使っていた1畳半ほどの小部屋があります。

更に竹の面白みをふんだんに使った「竹の間」があり、6畳ほどの広さですが、たくさんの竹使いのアイデアが詰まった宝箱のようなお部屋でした。

まだまだたくさんの遊び心のある素敵な建物なので、一度、足を運んでみてください。私もまた伺いたいと思います。



無尽蔵



竹の間 床



竹の間 円窓



庭から望む蘆花浅水荘

蘆花浅水荘を後にして車中、お昼ご飯の石山寺名物しじみご飯弁当をいただきながら移動し、次の目的地、「ラ コリーナ近江八幡」へ向かいました。

「ラ コリーナ近江八幡」は、建築家 藤森照信氏設計の菓子製造企業たねやグループの建物。八幡山を背景にしたジブリを思わせる建物は、自然との調和を感じさせるものでした。

駐車場から草屋根のメインショップに向かうアプローチで、まずは、「柿傘」が私たちを迎えてくれました。



柿傘

そこから正面に見えてくる草屋根は、改修中の為、芝生に覆われてはいませんでした、その代わり、めったに見ることができない下地の骨組みがアラワシになった状態を見ることができました。



メインショップの草屋根（改修中）

私たちは、ラ コリーナツアーに参加させていただき、この建物に込められた思いをお聞きすることができました。

メインショップ内の天井は、漆喰の上に凸凹に貼り付けてある炭片が、ラ コリーナのシンボルである蟻を思わせます。これは、吸音効果があるそうです。

栗の木の丸太を製材せずに使われている建物は、栗林をイメージさせるものです。栗はお菓子の材料として洋菓子、和菓子問わず使われます。その為でしょうか？

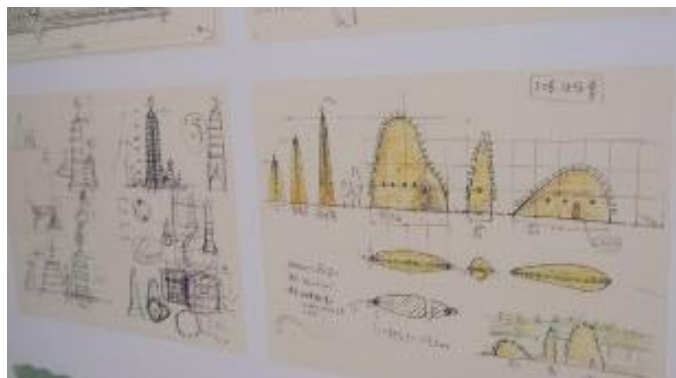


炭で蟻を表現したメインショップの天井



栗林をイメージさせるカステラショップのカフェスペース

ツアーでのみ公開されている本社では、藤森先生のスケッチや模型などを拝見させていただきました。設計期間中のたねやさんの思い、それを形にするためにいろいろご提案された足跡を見ることができました。



藤森先生のスケッチ（右は「土塔」の構想時のスケッチ）



実際に造られた「土塔」

ラ コリーナで、建物も、おいしいお菓子も満喫した後は、近江商人のお屋敷へと向かいました。

平成10年に国の重要伝統的建造物保存地区に選定された「五個荘金堂の町並み」をご案内いただきました。

白い壁と舟板塀が特徴的な街並みです。解体した船の板を塀に使うという近江の方々の無駄のないものの使いが伝わるものです。



水の中を泳ぐ鯉

各お屋敷には、門をくぐると敷地内に川の水を取入れる「川戸」と呼ばれるものがあります。



舟板塀



川戸

近江の街並みもとても素晴らしく、また、住まわれている方々の工夫が町の至る所にあり、学びの多い場所でした。



五個荘金堂の街並み

この度の見学会、ご案内いただいた方々、企画いただいた方々に心より感謝申し上げます。

また、必ず参加したいと思います。



蘆花浅水荘庭園にて

職人さんに聴く!!

今回の職人さんは 大工職人

株式会社伏見建築事務所 伏見 康司 氏



今回は、生駒で工務店を営んでおられる伏見康司氏（建築士会会員）に大工職人の話をお聞きます。設計者という立場で伏見氏の仕事に数多く関わってきた岩城由里子氏（女性委員会委員）が聴き手となり、対談形式でお届けします。

— まずはじめに、大工になろうと思ったきっかけをお聞かせください。

伏見：父親が大工の親方だったので、子どもの頃は住み込みの内弟子の居る中で暮らしていました。家の隣の加工場で大工たちが木づくりをしているところを日常的に見ており、将来は自分も大工になるものだと自然に思っていました。最初は外弟子に出て7年間つとめ、そのあと実家に戻りました。

— 大工になられて30年程と思いますが、今までどのような仕事をして来られましたか。

伏見：一般住宅の他に、田舎建ての民家、数寄屋風住宅、鉄骨造やRC造にも携わりました。いろいろな仕事をさせてもらう中で、やはり木造で大工の技能を活かす仕事が一番面白く、やりがいがありました。時代の流れの中で建材を使っていた時期もありまし

たが、大工の技能も発揮できませんし価格競争に巻き込まれるだけでしたので、どうせなら本当にしたい仕事だけをしたと思いました。

— 今は木造住宅の請負を中心に仕事をされていますね。伏見さんのところでは、ほとんどの仕事を手刻みでされていらっしゃると思いますが、プレカットではなく手刻みにこだわる理由は何ですか。

伏見：手刻みだと、金物に頼らずとも強い仕口や継手をつくる事が出来るからです。大工も自らの技能を発揮して腕を振るう仕事が出来ますし、若い大工が墨付け・刻みの技能や道具の使い方、そして木を見る目を養うことも出来ます。



新築の現場 棟上げ

— 以前に「大工仕事の中でどの仕事が一番楽しいですか？」と大工さんにお聞きしたことがあるのですが「墨付け・刻みが、やりがいがあって一番楽しい」と仰っていました。そもそも、一番やりがいのある仕事が機械任せにならない方が良いですね。

伏見：そうですね。そして手刻みを続ける理由としてもうひとつ大事なことがあります。このまま手刻みの技能が廃れてしまうと、古い建物を修理するときに現場に合わせた仕口や継手が作れなくなり、理にかなった修理が出来なくなってしまいます。

— なるほど。技能を次の時代に継承しないと、古い建物を維持保全していくことも困難になるということですね。

伏見： そうです。 日本には多くの社寺仏閣がありますので、宮大工の技能はこれから継承されていくことと思いますが、民間の建築に携わる町の大工の技能を廃らせないことが、今とても大事なことで感じています。そのためには若い大工を育てなければなりません。大工や左官の職人の技能が、建物だけでなく古くからの町並みも維持しているといっても過言ではありません。

- 伏見さんのところには大工さんが 6 人おられますが、3 人は若手の社員大工ですね。大工のなり手が少なくなっているように思うのですが、若い方はどのようにして来られたのでしょうか。



3 人の若手大工

伏見： 若手は、5 年目の子が一人と 3 年目が二人おります。5 年目の子は小さい頃からよく知る子で、特に大工の仕事に興味があったわけでもなさそうでしたが、縁あってうちに来ました。今では墨付け・刻みの技能も習得し、削りものの腕前はなかなかのものです。3 年目の二人はどちらも建築系の学校の卒業生で、それぞれの学校の先生からの推薦で来ました。「本物の大工になりたい」という強い思いは変わらず、十分に仕事をしてくれています。

- 3 年目の二人が入社した当時、古民家の改修の現場と新築の現場が同時進行していましたね。入社後しばらくしてから二人に仕事の感想を聞くと、二人とも古民家の改修の仕事が楽しいと言っていたので驚きました。古民家の現場はなかなか難しい仕事でしたので、新築の方が楽しいと答えると思ったのですが。



古民家改修の現場

伏見： 伝統構法の木の仕事に魅力を感じることが出来たのですね。これから経験を積んでほしいと思います。

- さて、先ほどの手刻みのことについて。手刻みは時間（工期）も費用もかかりますので、お施主さんの理解も必要だと思うのですが。

伏見： はい。今の世の中、早くて安いのが当たり前だと思われがちですが、幸いにしえてうちに来られるお施主さんは我々の家づくりに共感していただいております。大変有難いことです。手刻みをしているときには加工場に来ていただき、大工の仕事を見ていただいています。また、夏休みには加工場で大工と一緒に木工体験をしていただく機会もつくっています。これはなかなか好評です。小さなお子さんにも、木に触れて木でものを作る体験をしてほしいですね。この取り組みが「大工さんになりたい」と思うきっかけになれば嬉しいのですが。

- 木工体験は、ちょっとした大工スカウト活動なのですね。私も少しお手伝いさせていただきましたが、参加されていたお施主さんが「大工さんって、かっこいいね」とお子さんに話されていたのがとても印象的でした。

木工体験で使われていた木は、建築の廃材利用で全て吉野材でした。色つやがよく、無地ものもあり、なかなか贅沢な木工体験でした。

伏見さんのところではいつも吉野材を使って家づくりをされていますね。

伏見：やはり吉野の杉・桧はいいですね。吉野では時間と手間をかけて丹念に林業の施業をされている。良材なので、大工も良い仕事が出来ますね。近くにこれほどの産地があることは、とても幸せなことだと思います。

大工は木のことを知らなければなりません。そのためには山に入り木の育った環境を知ること大切です。主催する団体で「吉野の森見学バスツアー」を定期的に開催しており、若い大工たちにも積極的にツアーに参加させています。

もちろん、家づくりをされるお施主さんにもご参加いただき、木がどのようなところで育てられ、製材され、家をつくる材料になっているのか、一連の流れを見ていただいています。

家づくりを通じて、職人の技能のことや日本の林業のことを少しでも知って貰えればと思います。



吉野の森見学バスツアー（川上村） 山守さんに林業の話を聞く

— 木のふるさとを知った上で木の家に住んでいただくと、家に対する愛着も増すことでしょう。職人さんのつくる木の家を、山ごと愛してもらえると良いですね。

本日は有難うございました。

聴き手：岩城 由里子

町家講座「奈良町茶室の楽しみ方講座」の報告

庄田 尚代

平成31年2月16日(土) 午後2時より、奈良町にある「にぎわいの家」にて、岡田伸子氏（建築士会女性会員）を講師として、「奈良町茶室の楽しみ方講座」が開催されました。

講座では、奈良町の茶室を中心に、茶室の見どころと楽しみ方の紹介がありました。講座は大盛況で、40人を超える多くの方が足を運ばれました。



講座風景

「奈良町にぎわいの家」は、1917年に建築された町家で、奈良市によって改修、運営されています。当時の暮らしや文化を発信する場として、また、人々が交流する場として親しまれています。



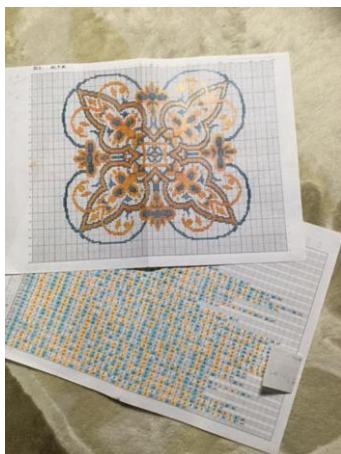
奈良町にぎわいの家玄関 公式HPより

私の好きな？ と言いながら考えてしまいました。長く続けているお茶のお稽古とメタルビーズでした。

メタルビーズとの出会いは、20 年程前の瀬戸内海クルーズの船の中でした。ギャラリーに展示してあるバックが目の中に飛び込んで来たのです。そのバックを自分で作ることができるなんて素敵だと思ったのです。大阪に教室があることを教えていただき、早速申し込みました。

メタルビーズの材質は、クロム、ロジウムに色々な色を焼き入れます。形は丸(大・小)、角(大穴・小穴)、筒と作品によって選んでいます。

ひとつのバックが出来あがるには2～3年程かかりました。(1 年程で出来る方もいらっしゃいます。)出来たものを見ると、次の目標を目指して図案を探していました。(【写真1】図案と数値表)



【写真1】図案と数値表

ここでバック作りの工程を簡単に説明をさせていただきます。

まずは、図案を選びます。図案の色にビーズの形、色を決めます。一段ごとに色別に数値表を作成します。小さなバックで横 130、縦 200 個、大きな物だと横 240、縦 440 個のビーズが必要になります。

次は機械に糸を張ります。ここがピンと張れないと後々に響いて来るのです。(【写真2】図案と完成作品)



【写真2】図案と完成作品

ビーズに糸を通して、下から縦糸の間に挟み、縦糸を挟んで上からビーズに糸をもう一度通します。これを繰り返

します。縦糸の残りを縫い戻して、ビーズの布地が出来ます。

フサを付け、脇を縫い、持ち手を付け、裏地を付けて出来あがりです。

ただ、家でビーズ入れの途中でトラブルがあると、月に一度のお稽古です、そこから翌月迄解決できませんでした。

自分好みのバックが出来たのは、10 年程たってからです。周りの人が作る物を見て、あれも、これもいいなあ～と思ってしまいます。でも、一緒の物は嫌だし自分だけのバックが欲しくなって、昨年、3 年かけて、ようやくバックが出来あがりました。

(【写真3】完成作品)



【写真3】完成作品



【写真4】ネックレス

他にメタルビーズで作る小物にはネックレス、イヤリング、ペンダント、ベルトなどがあります。バックを作っている間に手休めに小物を作るのですが、これがまた楽しいのです。

(【写真4】ネックレス)

こうして書いていると、また何か作って見たくなくなってしまいます。目も少しずつ衰えてきましたが、好きなことになると思えてくるから不思議です。

皆様、どうぞご自愛下さいませ。好きなことをして誰かの為になると素敵だと思います。

奈良県建築士会女性会員用グループメールへのお誘い

女性委員会 広報委員 中辻 千重

このたび、建築士会の勉強会や見学会、その他のイベントなどを女性会員の皆様へお知らせする方法として、女性会員専用のグループメール（GM）を立ち上げることになりました。フープでのお知らせは年4回、紙面にてお届けしていますが、それ以外のタイミングでのお知らせなどをこのグループメールで随時お届けしていく予定です。参加は任意です。よろしくお願いいたします。

登録の手順

- 1 建築士会事務局にご自分の登録したいメールアドレスを連絡してください。できればPCのアドレスが望ましいです。（既にご連絡いただいている方は、再度の連絡は不要です。）

■■■■➡ 建築士会事務局 連絡先 E-mail : info@nara-kenchikushikai.or.jp



- 2 ご登録いただいたアドレスに「Freeml byGMO」より次のような文面の招待メールが届きます。

freeml 運営事務局です。

女性委員会広報委員 中辻千重 さんがあなたを freeml のメーリングリスト:奈良県女性委員会会員用GMへ招待しています。

女性委員会広報委員 中辻千重 さんからのメッセージ

グループメール「奈良県女性委員会会員用GM」に招待します。このグループメールは奈良県建築士会の勉強会・見学会などのお知らせを目的として作成しています。建築士会事務局にアドレスをご連絡されている女性会員様あてに送信させていただいております。参加は任意です。参加ご希望の方はこのメール内の承認用のURLから参加手続きしていただきますようお願いいたします。

.....



- 3 メール本文の続きに記入されているURLをクリックして、手順通りに参加承認をしてください。



- 4 以上で女性会員用グループメールへの参加が完了です。

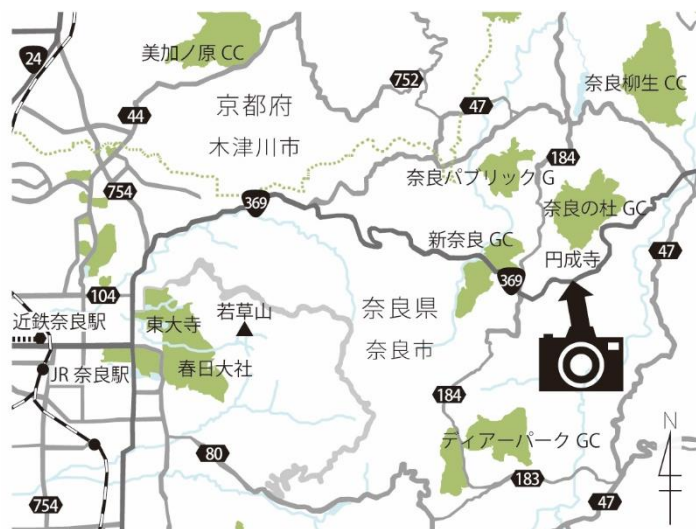
このグループメールは、主に建築士会や女性委員会のほうから、ご登録されている皆様へ一斉のお知らせをするという形で使用いたします。現時点で建築士会事務局にメールアドレスをご連絡されている方には3月末頃に一度招待メールを送らせていただいております。グループメールに参加ご希望の方で、参加承認の手続きがまだの方は是非ご参加ください。また、このグループメールの詳しい使用方は、ご登録された方に、広報委員中辻より追ってお知らせいたします。



にんにくせんちょう
奈良市忍辱山町

奈良市の山間、柳生街道沿いにひっそりと佇む忍辱山円成寺庭園。平安時代末期に造成されたとみられる名勝庭園で、門の前に立つと、奥に広がる美しい庭園に吸い込まれるような感覚になります。

■撮影場所 案内図



住所：奈良県奈良市忍辱山町 1273

今後の事業予定

2019 年

5 月

9～13 日 (木)～(月)

一級建築士試験受付
(奈良県建築士会館)

21 日 (火)

平成 31 年度通常総会
(ホテルリガーレ春日野)

22 日 (水)

監理技術者講習

6 月

12 日 (水)

第一期定期講習
(ホテルリガーレ春日野)

19 日 (水)

監理技術者講習

7 月

1 日 (月)

建築士の日

7 日 (日)

二級建築士試験 (学科)

24 日 (水)

監理技術者講習

28 日 (日)

一級・木造建築士試験 (学科)

編集後記

今号が皆様のお手元に届く頃、いよいよ「令和」時代が幕を開けますね！「令和」は万葉集が出典とのこと。奈良県人としては嬉しく思います。新元号の出現によって、平成、昭和、大正・・・と歴史を遡るような世間の動向があり、私も自分自身の歩みを振り返るきっかけになりました。

60 年以上続いた「昭和」は、一般的には激動の時代と言われますが、子どもだった私にとっては、のんびり過ごした平和な時代。ノスタルジックな思い出です。一方で、受験、結婚、出産、就職と人生を左右する出来事が起こり、子どもから大人と呼ばれるようになった「平成」こそ、私にとっての激動の時代。そして、それは多少穏やかになりながらも、「令和」に引き継がれていきそうです。

さて、女性学の研究で知られる社会学者の上野千鶴子さんが、先日行われた東京大学の入学式で述べられた祝辞が話題になっています。性差別について述べた部分が特にクローズアップされていますが、ここでは、終盤、「知」について語った部分を簡潔に紹介します。これは東大生に限らず、また男女関係なく当てはまると思うからです。

上野さんは、「これまであなた方は正解のある知を求めてきました。これからあなた方を待っているのは、正解のない問いに満ちた世界です。」と述べ、どんな世界でも、「生きていける知を身につけてもらいたい。」とエールを送られました。

上野さんの言葉をお借りするなら、大人の世界、つまり今私が生きている社会は「正解のない問いに満ちた世界」なのかもしれません。とっくの昔に高校生でも大学生でもなくなってしまった私ですが、未だに「生きていける知」を十分に身につけているとは思えません。

「令和」を迎えるにあたり、これから大人になってゆく若い世代にエールを送りつつ、私自身もまだまだ「正解のない問い」と向き合っていこうと思います。

(野村 亜希子)